



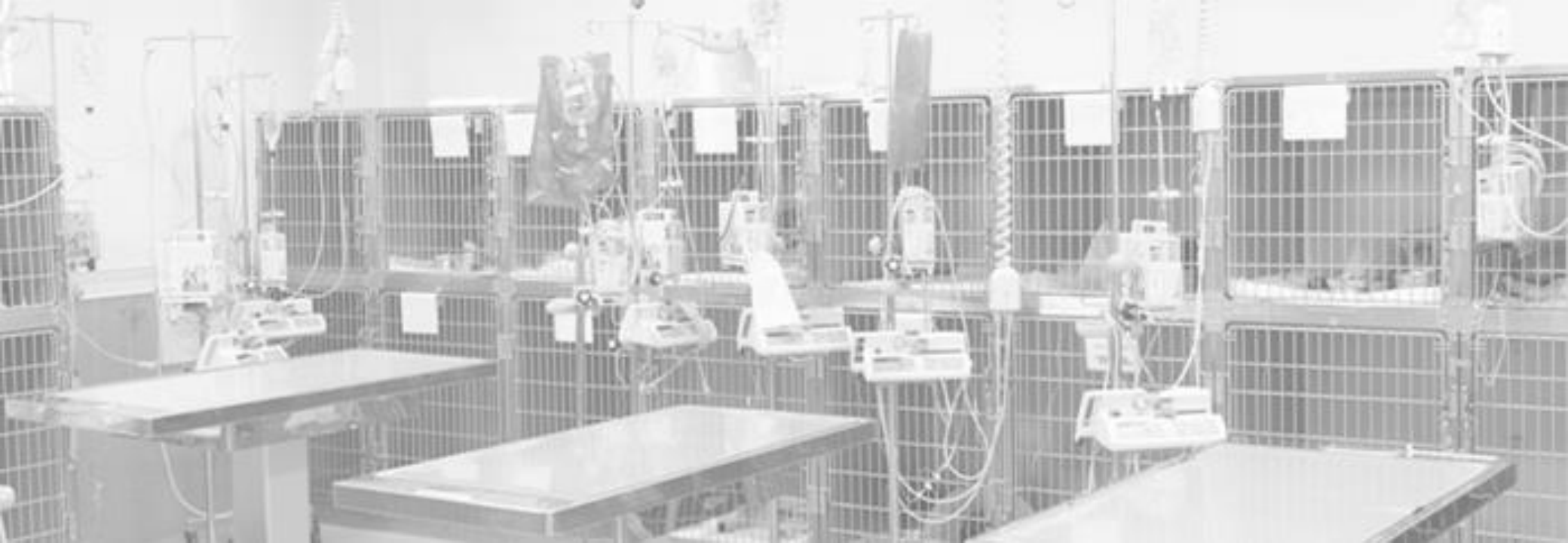
2019年5月

2019年3月期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）



- I 決算の概要**
- II 中期展望**
- III Appendix**



I 決算の概要

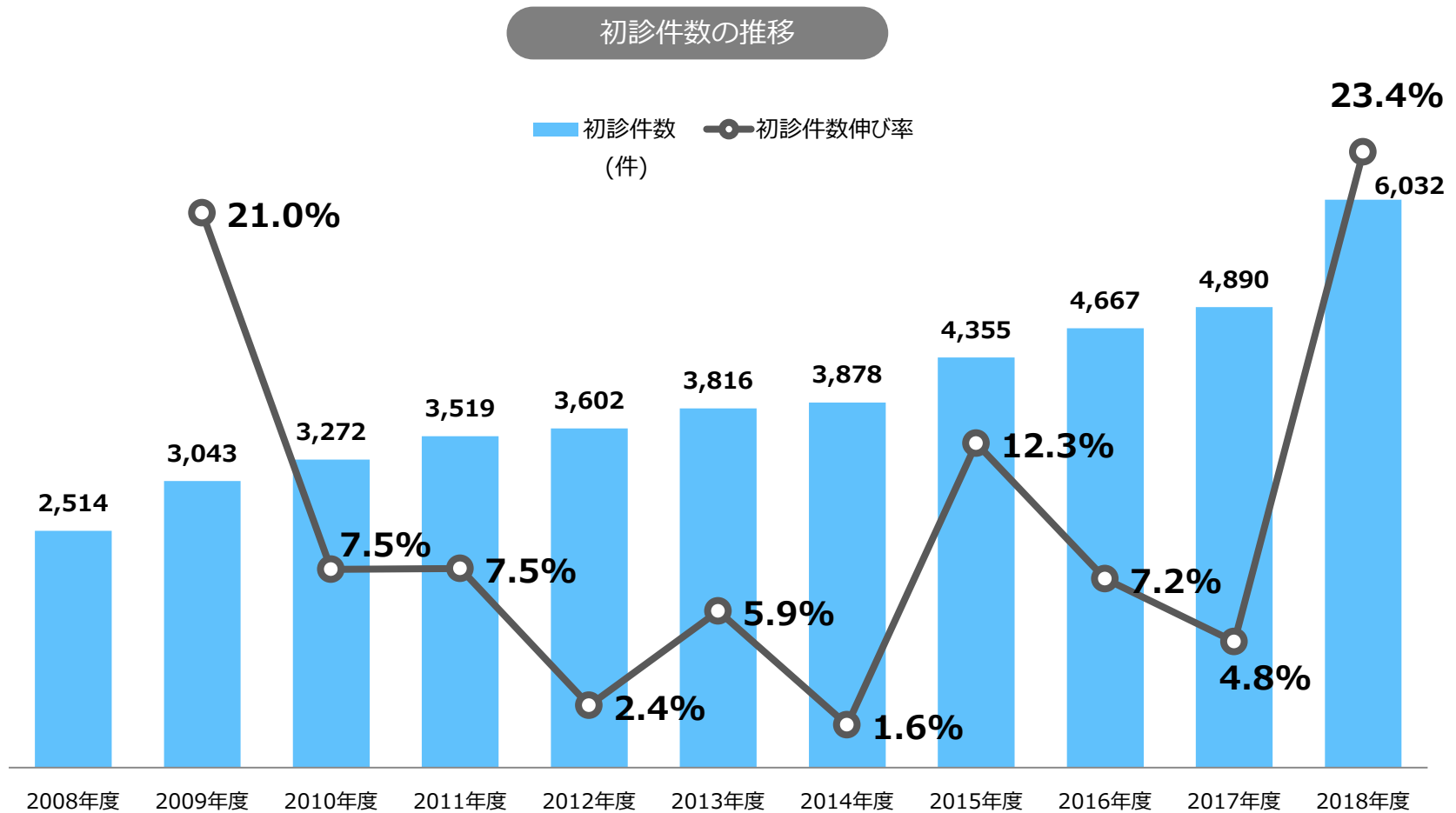
- 2019年3月期は昨年1月に開設した東京病院が順調に立ち上がり、増収増益を達成

(百万円)	2018/3期	2019/3期	前年比	
売上高	2,258	2,563	+304	+13.5%
売上総利益	782	923	+141	+18.1%
営業利益	279	397	+117	+41.9%
経常利益	263	404	+141	+53.7%
親会社株主帰属 当期純利益	208	294	+86	+41.7%
営業利益率	12.4%	15.5%	+3.1 p	—
経常利益率	11.7%	15.8%	+4.1 p	—
当期純利益率	9.2%	11.5%	+2.3 p	—

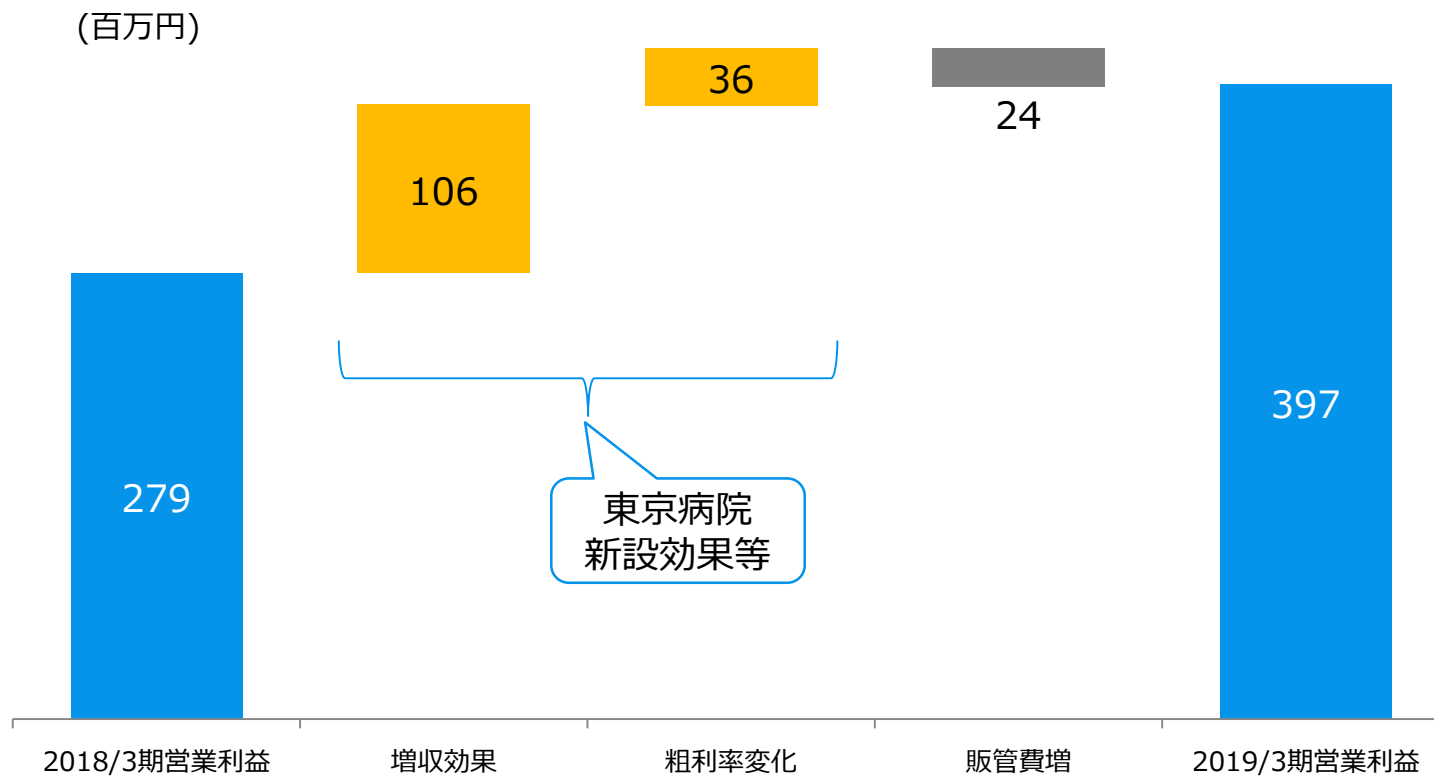
✓ 初診数：6,032件
(前年比+1,142件、+23.4%)

初診数（紹介数）の推移

- 初診数は6,032件、前年比+23.4%と大幅アップ



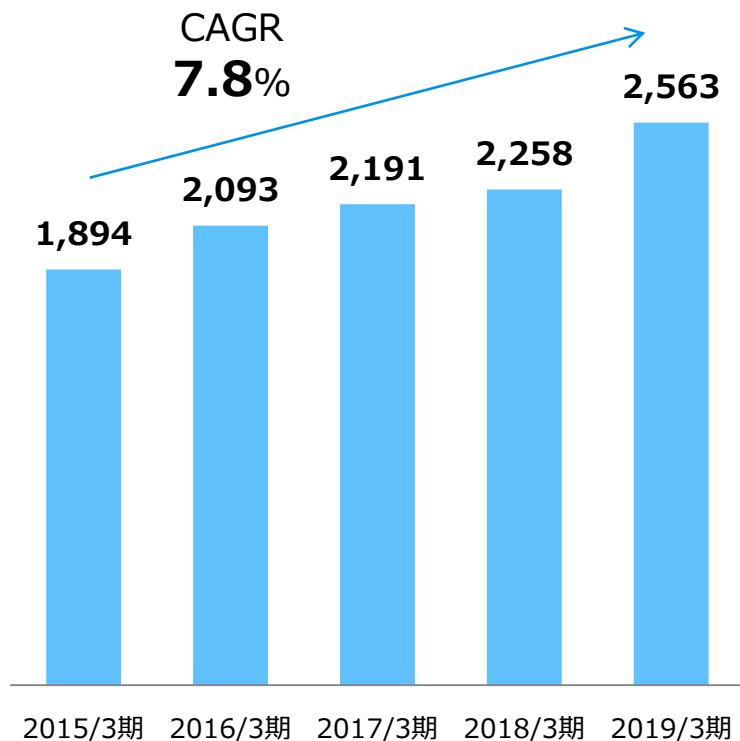
■ 2018年1月に新設した東京病院の稼働がフルに寄与



- 売上高、営業利益ともに勢いを取り戻した。売上高は2015/3期以降CAGR7.8%に

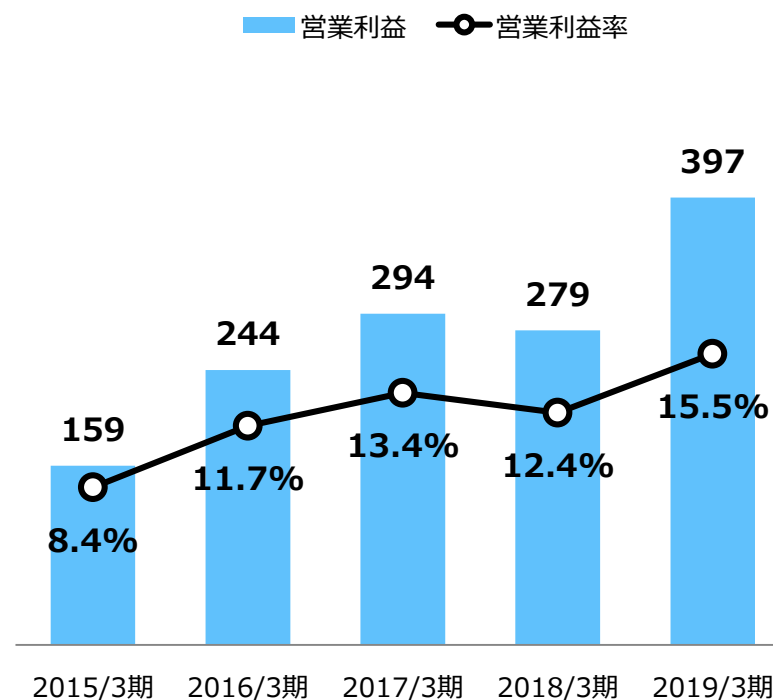
売上高の状況

(百万円)



営業利益・同利益率の状況

(百万円)



バランスシートの状況

- 東京病院稼働本格化による売り上げ増により、手元流動性が潤沢となり、また、有利子負債の返済も進み、同依存度が低下

(百万円)	2018/3期	2019/3期	前期比
流動資産	1,154	1,480	+326
現預金	890	1,250	+360
売掛金	118	142	+23
固定資産	4,778	4,607	▲170
有形固定資産	4,553	4,429	▲123
総資産	5,932	6,088	+155
負債	4,404	4,259	▲145
有利子負債	4,110	3,834	▲276
純資産	1,527	1,828	+300
負債純資産合計	5,932	6,088	+155

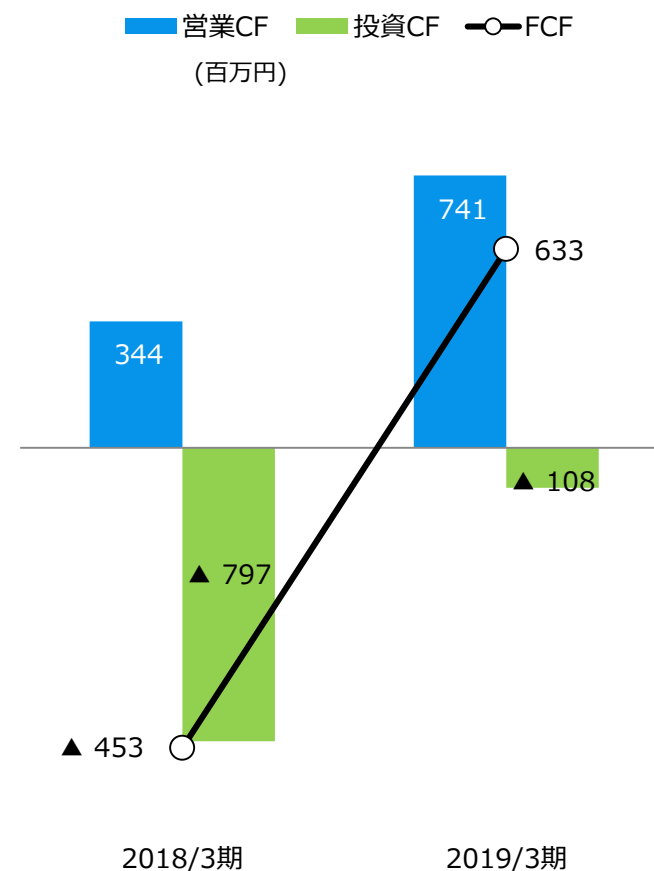
有利子負債依存度は
69.3%から63.0%に低下

キャッシュフローの状況

- 営業CFが大幅増。一方、2019/3期は大きな投資がなかったこともあり、投資CFが大幅縮小。結果、FCFは前期比大幅増（+10億円超）

(百万円)	2018/3期	2019/3期	前期比
営業CF	344	741	+397
減価償却費	176	224	+47
投資CF	▲797	▲108	+689
有形固定資産取得	▲787	▲97	+690
FCF*	▲453	633	+1,086
財務CF	485	▲273	▲758
有利子負債の増減	452	▲276	▲728
株式発行による収入	33	6	▲27

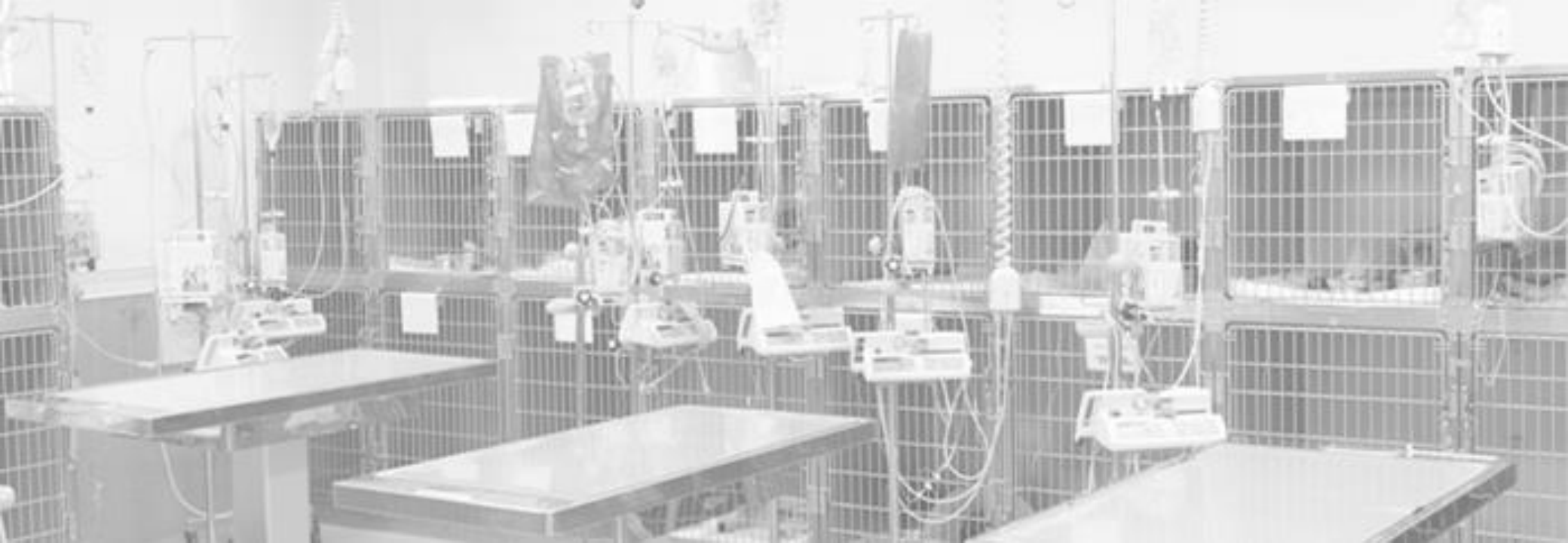
*FCF=営業CF+投資CF



2020年3月期の見通し

- 東京病院稼働開始に伴う収益大幅増は一旦、落ち着くと想定し、売上高、営業利益とも保守的に想定

(百万円)	2019/3期	2020/3期計画	前年比	
売上高	2,563	2,650	+87	+3.4%
売上総利益	923	—	—	—
営業利益	397	410	+13	+3.3%
経常利益	404	410	+6	+1.5%
親会社株主帰属当期純利益	294	300	+6	+2.0%
営業利益率	15.5%	15.5%	±0.0 p	—
経常利益率	15.8%	15.5%	▲0.3 p	—
当期純利益率	11.5%	11.3%	▲0.2 p	—



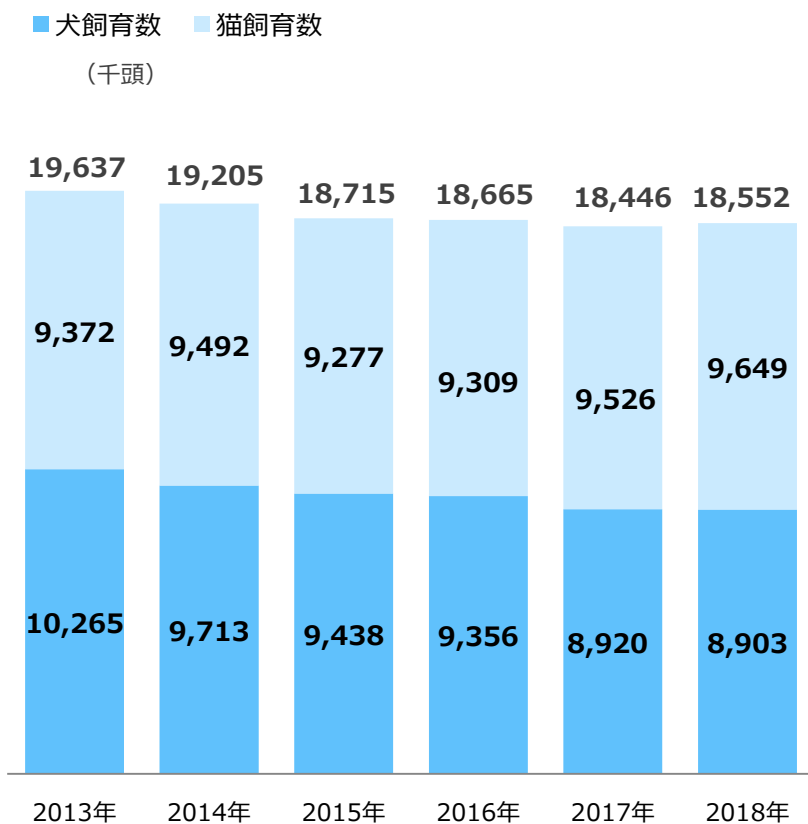
Ⅲ 中期展望

- ① ペット数、ペット保険市場の拡大
- ② 拠点拡大
- ③ 連携病院数の拡大
- ④ 新規事業の拡大継続

①-1 動物医療業界を取り巻く環境

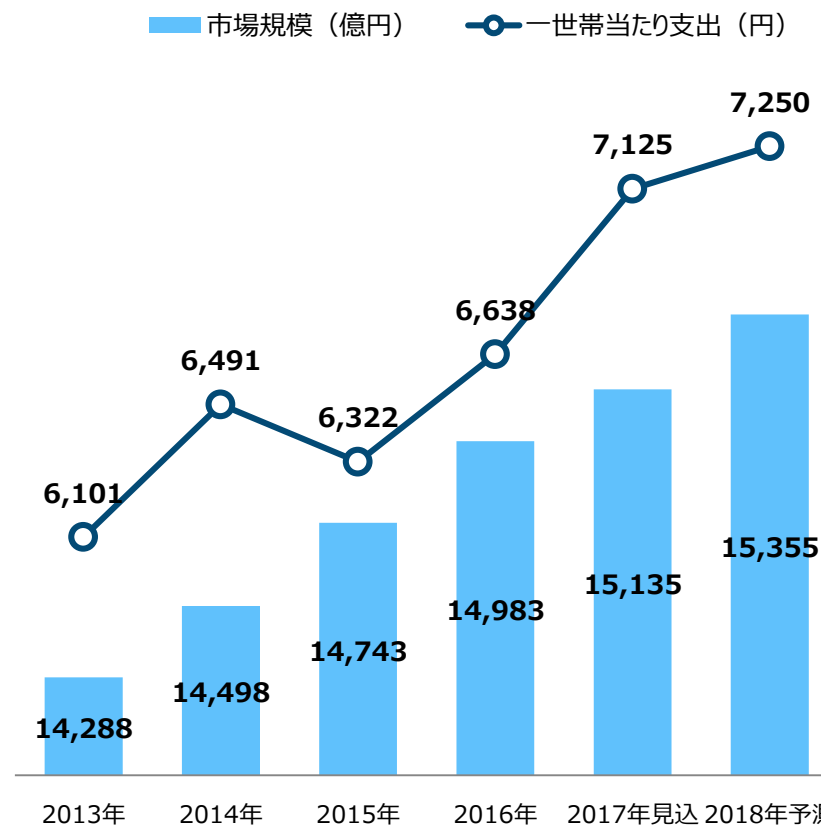
- 犬猫の飼育頭数は漸減減少傾向にあるが、ペット関連市場規模全体及び一世帯の医療にかかる費用は上昇傾向

犬猫飼育頭数



出所：日本ペットフード協会「平成30年(2018年)全国犬猫飼育実態調査結果」

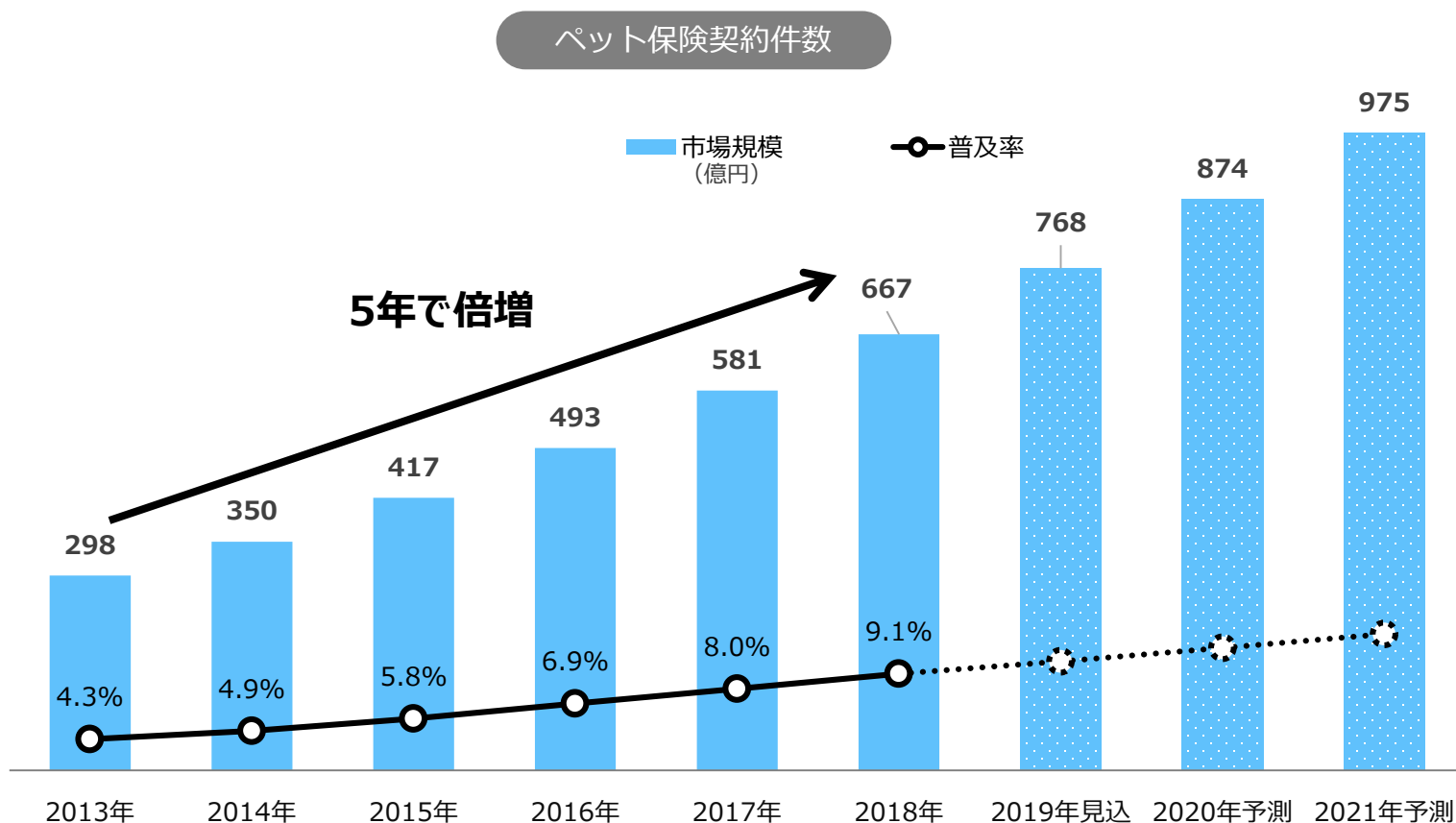
市場規模と一世帯当たり動物病院支出額



出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2018版」、総務省「家計調査」

①-2 ペット保険の成長性

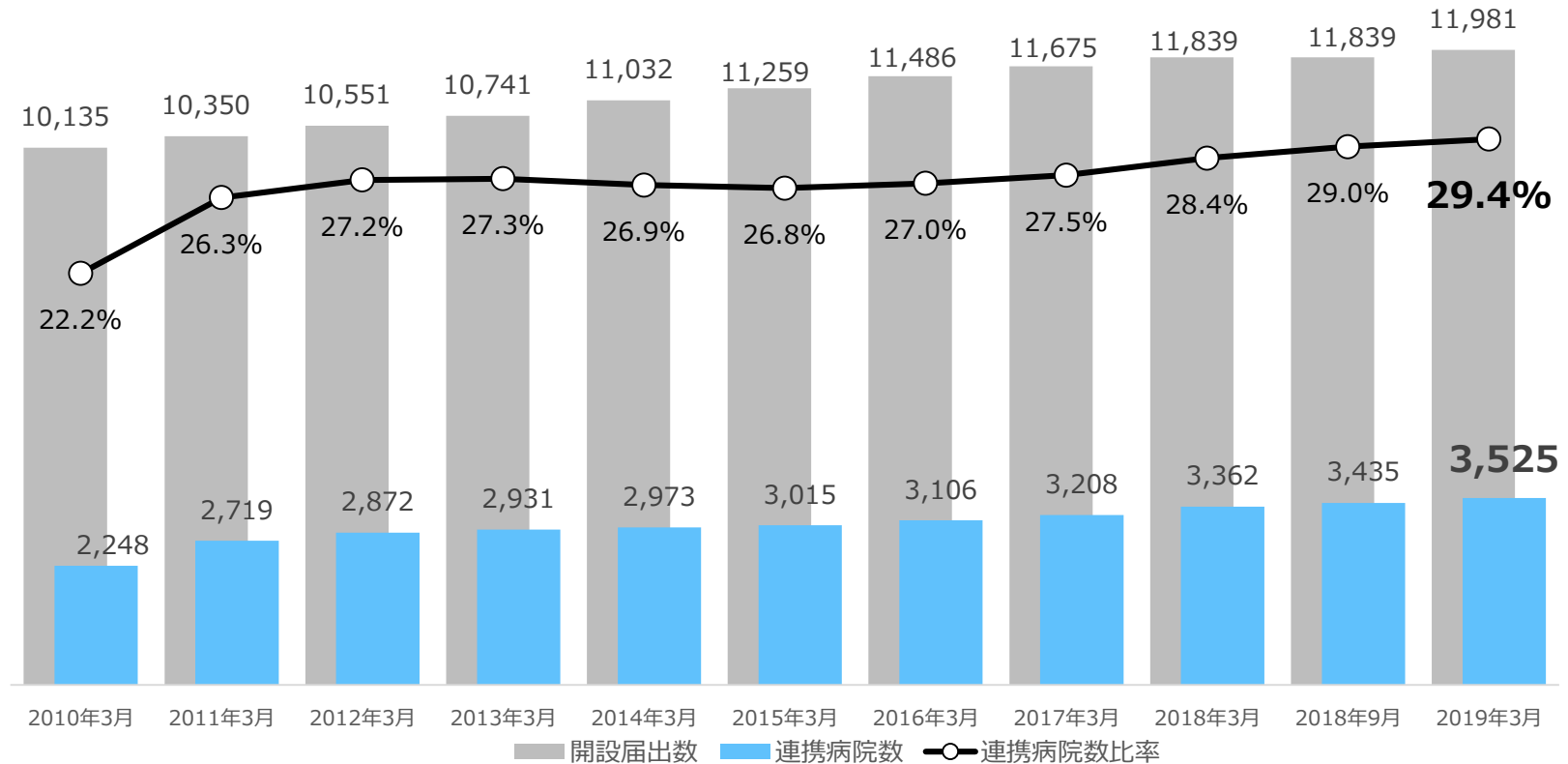
- ペット保険の市場規模は5年間で倍増しており、今後も拡大が続く見通し
- 加えて、ペット保険普及率%は一桁台に留まっており、将来的に更なる普及が見込まれる



出所：富士経済 2019ペット関連市場マーケティング総覧

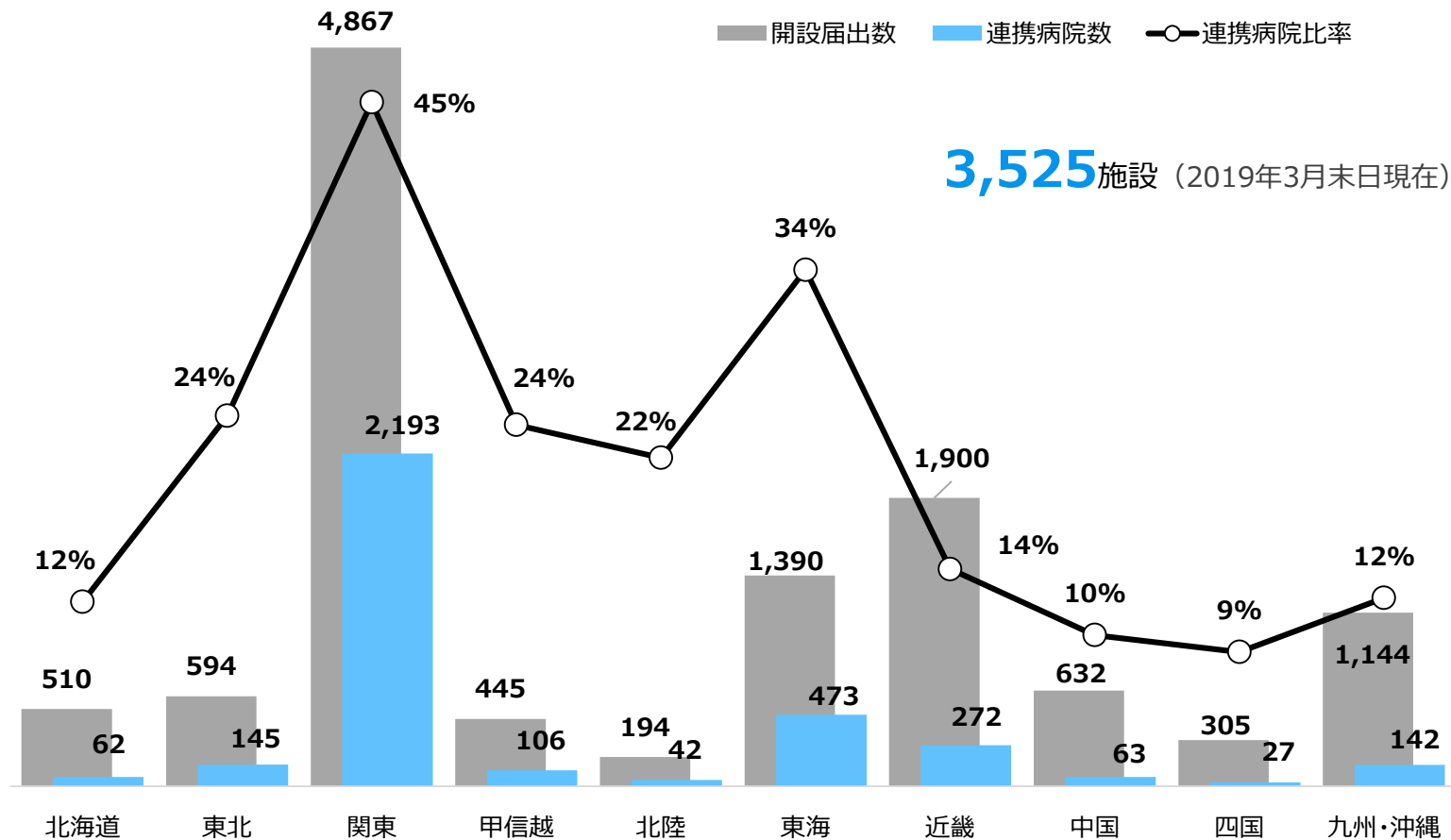
②拠点拡大、及び、③連携病院数の拡大

- ▶ 大阪病院（仮称）は、2021年秋頃に開業予定
 - ✓ 東名阪の拠点をもとに、連携病院の拡大加速へ
- ▶ 連携病院数：**3,525**施設、同比率：**29.4%**（2019年3月末日現在）



(注)開設届出数は農林水産省（前年12月末時点の小動物診療施設の軒数）

(ご参考) 地域別連携病院数



(注) 地域別の開設届出数は農林水産省より、2017年12月末時点の小動物診療施設の軒数
連携病院数は2018年9月末時点の軒数

◆プラスサイクル「活動量計」(2019年2月リリース)

趣旨

- ◆ 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」
- ◆ 「動物の飼い主」と「かかりつけ病院」のコミュニケーションツールとしての役割

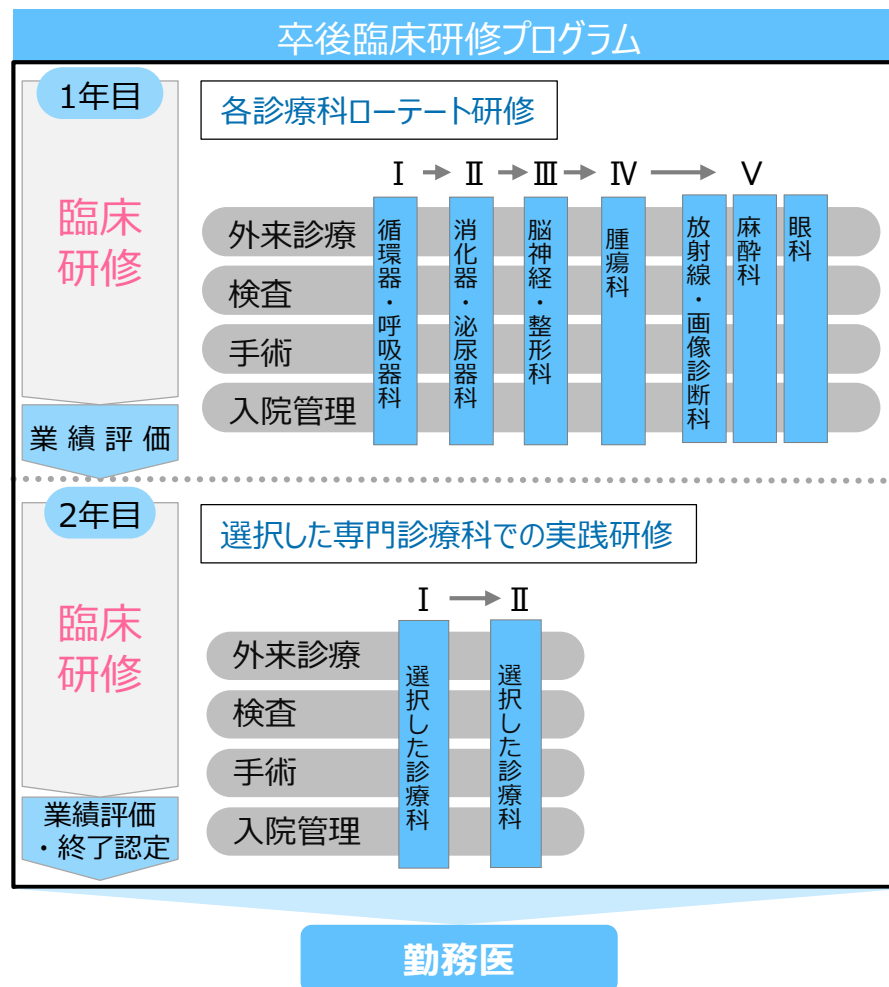
現状

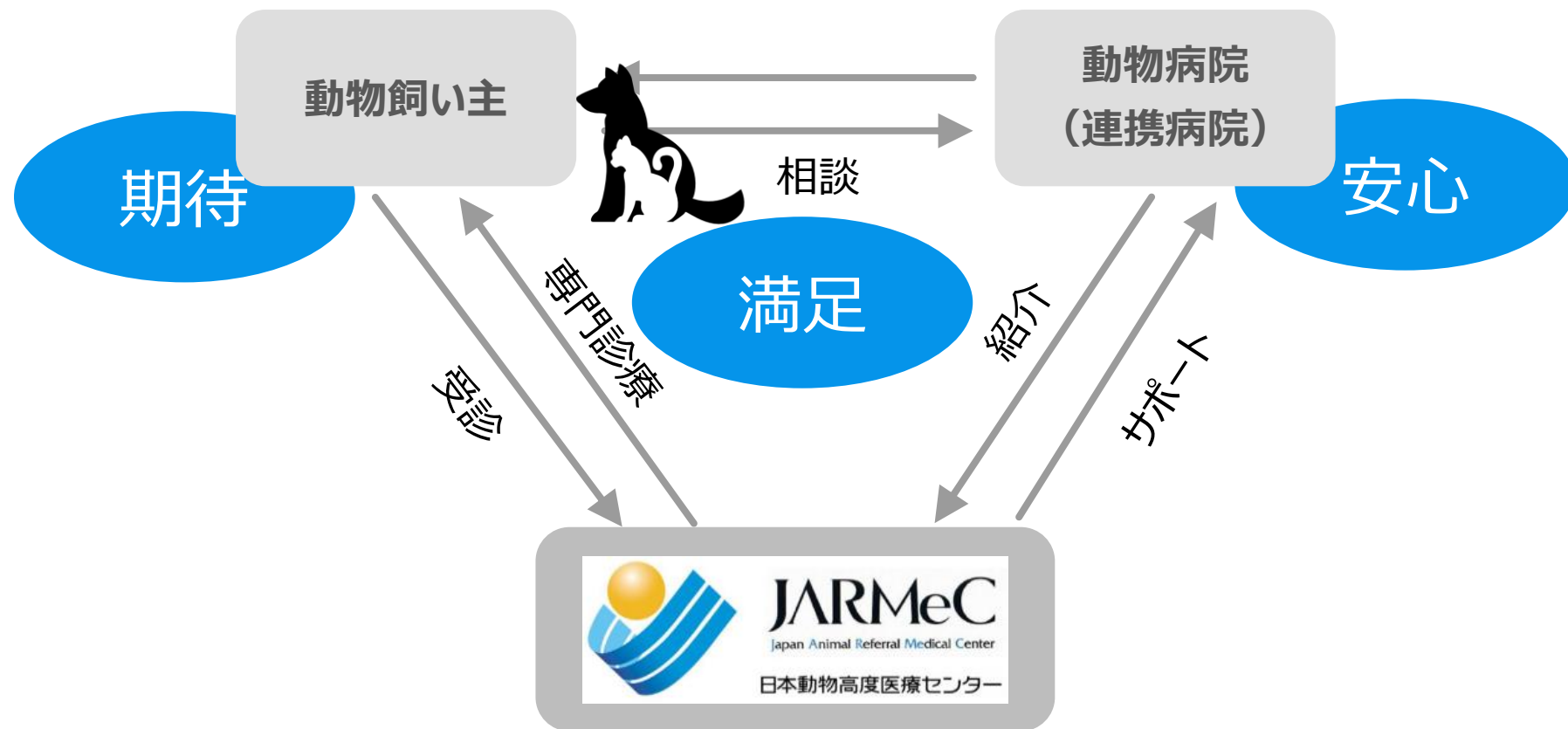
- ◆ 動物病院経由での拡販を目指し、普及活動中
- ◆ 複数の大手企業との協業交渉中



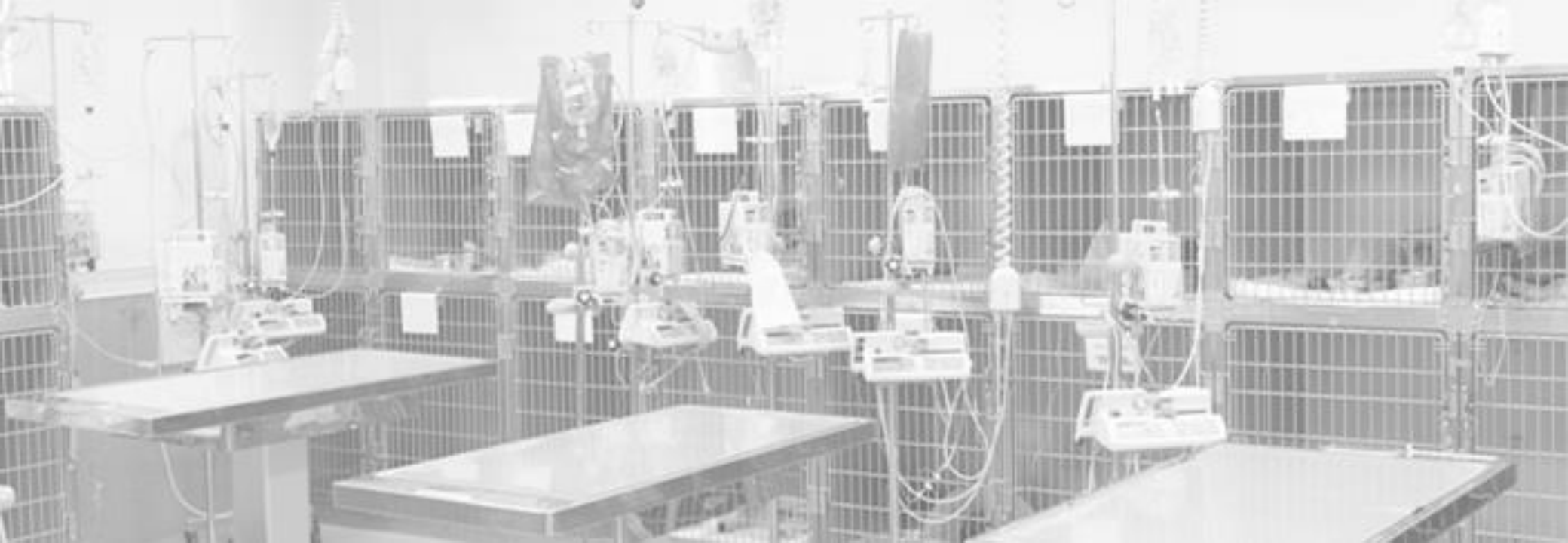
(ご参考) 人材(獣医師等)の継続的な獲得

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力し、採用活動を積極的に実施
- 実践的な卒後臨床研修を通じて勤務医を育成し、拠点の増加に対応している





- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」
- ✓ かかりつけ動物病院様が**安心**して紹介
- ✓ 患者動物・飼い主様が**期待**して受診
- ✓ その結果皆様と共に我々も**満足**できる動物医療を目指すことで、広く社会に貢献



Ⅲ Appendix



<見通しに関する注意事項>

- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

<お問い合わせ先>

株式会社日本動物高度医療センター

044-850-1320

e-mail : takayuki.ishikawa@jarmec.jp